

ふるさと名物応援宣言について

佐久間 儀郎



【質問】市は新たな地域ブランドを「新白石三白」として、白石商工会議所を通じ、当該産品を用いて地域活性化を図る事業者を支援するとしている。

また、中小企業庁では、地域ブランド創出の取り組みを促進する観点から、市町村において地域を挙げて支援を行う「ふるさと名物」を特定し、「ふるさと名物応援宣言」をすることを提唱している。

ラサポ（中小企業経営者をサポートするサイト）での情報発信といった優先措置が受けられるものである。

【ふるさと名物応援宣言】を生かして、地域活性化を図る事業者を積極的に支援する検討をされてはどうかと考えるが、所見を伺う。

【答弁】【市長】本年度において、一つの自治体で複数の宣言が可能との判断が示されたことから、第1弾として「こけし」を第61回全日本「コンクール」で応援宣言することを考えている。

◎学校給食について

【質問】学校給食は、学校教育活動の二環として実施され、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける上で重要な役割を担う。

昨今の食材価格の上昇によって、学校給食にも影響が及んでおり、他市では限られた予算の中で必要な栄養量を満たすメニューを提供できるよう、努力を重ねていると聞く。

本市では、米代だけでなく輸送費の上昇の影響も受けて、副食に使える予算が減り、栄養量を確保できていないのではないかと懸念している。

また、残食の課題も抱えているのであれば、併せて現状を伺う。

【答弁】【教育長】本市の学校給食における栄養摂取状況は、栄養教諭による献立、使用する食材の工夫努力により大幅に改善しており、各栄養素とも心配されるような状況にはないと認識している。

残食については、全て廃棄処分とし、処理施設で焼却処分をしている。

エス・ディー・ジーズ「SDGs」の積極的推進について

菅野 恭子



【質問】SDGsは「誰一人取り残さない」の理念のもと、世界における貧困・飢餓、健康・福祉、教育、気候変動、平和・公正等の課題解決に向け、世界各国が取り組む17の目標のことである。

2015年9月に国連加盟国が全会一致で決議、達成期限を2030年とし、日本も2016年にSDGs推進本部を設置し、取り組んでいることから、本市も積極的推進を図るべきと考える。

第六次白石市総合計画は、SDGsの理念「誰一人取り残さない」を根底において策定すべきと考えるが、見解を伺う。

【答弁】【市長】第六次白

石市総合計画は、将来にわたって持続可能なまちづくりというSDGsと同様の理念に沿って策定していきたく

考えていることから、SDGsの理念と乖離するものではないと認識している。

【質問】市長を本部長とした「白石市SDGs推進本部」を設置し、SDGsの理念の啓発と具体的な行動を官民一体となり推進していくべきと考えるが、見解を伺う。

【答弁】【市長】自治体SDGsを推進するには、行政のほか、企業、福祉、教育、医療、商工関係等の全ての市民が目的を理解し、ともに学び、協力し合わなければならぬ。

今後、どのような方策が良いのか、総合的に

検討していきたい。

【質問】SDGsの推進には、本市全職員のSDGsに対する理解度の向上が重要であり、啓発を図るべきと考えるが、見解を伺う。

【答弁】【市長】市職員がSDGsの意義、目標などの理解がないと、推進は難しいと思う。

今後、啓発について検討していきたい。

◎市税等納付にスマートフォン決済アプリを活用について

【質問】コンビニエンスストアで市税等を納付できる利用者が、スマートフォン決済アプリを活用して納付できるサービスがある。

本市においても導入すべきでないか。

【答弁】【市長】先行自治体と情報の共有を図り、導入できるよう前向きに検討したい。

◎その他の質問

不妊症の周知と患者支援について